三一〇八〇
宮部金吾宛て新渡戸稲造書簡

一九二六年六月三十日
宮部金吾旧蔵書簡

久々の手紙うれしく見た、又ガンキ老人と一郎の写真を見て両君の丈夫の有様殊ニ君の髪の黒いのニハ驚き且つ浦山敷思ッた、
新聞ニよると札幌の五十祭、嗚呼モー五十年か!!!御互ヨクも活きて居るものだ、Most impressionable time on life を北海道の田舎で送ッたことハ今更難有思ふ、夫れニ君等始め良友を得て事ハたゞ天ニ謝するのみだ、
来年帰朝の節ハ是非御地ニ行くヨ、御馳走の準備今から頼むヨ
佐藤氏ハ男爵位ニする話がないか、He deserves it best. 原敬氏ハ居たら其位の事か出来たらう
二、
僕も今年一杯で満七年奉職した、エライ事もせぬ代り大した失敗もなく此の風変りの役所ニ勤め、兎ニ角あまり馬鹿ニもされずに日本の為めニ高位をふさへて居た、明春ハ帰りて全国を遍ハり度い、遠方から見ると我邦の足らぬ点が見得てならぬ
ドレ—今日ハ少しゆッくり書く積りの所、又々飯ニ招がれた、コレカラ行ハねバならぬ、其地各位ニ呉れ—
宣敷伝言たのむ

1926. 6. 30.　新渡戸

宮部兄
一昨日、Miss Hartshorne 来着、明日出立。前田家皆無事
弟の植物学者も来た当地ニ居る

北海道帝国大学　392

三一〇八一
クラーク先生胸像建立事業

一九二六年十二月十日
『札幌同窓会第四十八回報告』

クラーク先生胸像建立事業

大正十四年一月二十四日本会評議員会に於て、明年挙行せらるゝ北海道帝国大学創基五十週年記念祝賀の為適当なる記念事業を行はんとの議起り、之れを同月三十日の総会の議に附したるに全員異議なく之に賛成し、記念事業の種類其実行方法を役員に一任せられたり。於茲役員は評議員会を開き協議を重ねたる結果六月一日に至り、右記念事業として本学並に附属実科専門部卒業生、教職員、学生々徒より寄附金を集め、本学創基の大恩人クラーク先生の胸像を校庭内に建立し記念式当日之れを大会に寄贈することを以て最も時宜に適したるものとし、之れが実行に着手する為めに本会々長南鷹次郎氏を委員長に推し、幹事、評議員を実行委員とし、共他三十余名の委員を挙げたり。爾来事業は順調に進み、予期の如く其工を竣り、去る五月十四日大学記念式典当日之れが除幕式を挙行して之を大学に寄贈せり。

胸像仕様書梗概左の如し。

一、胸像　銅製　高キ二尺三寸。
田嶼碩朗氏ノ作。
一、胴石　福島県産紅御影、高サ六尺一寸、巾二尺三寸角、加工ハ艶磨仕上ゲ。
正面ニ彫刻セル W. S. Clark ハ先生ノ自署、BOYS, BE AMBITIOUS ハ先生ノ遺訓、模様ハ先生ガ嘗テ倫敦市外ノ「キウ」植物園ニ於テ満開ノ花ヲ見テ霊感ニ打タレタリト云フ植物「ピキクトリア、レヂヤ」ヲ図案化シタルモノ。
一、台座石　福島県産紅御影、高サ一尺、巾三尺六寸五分角、加工ハ艶磨仕上ゲ。
一、周囲敷石　茨城県稲田産花崗、二十四枚ヨリ成

393　《1926年》

